

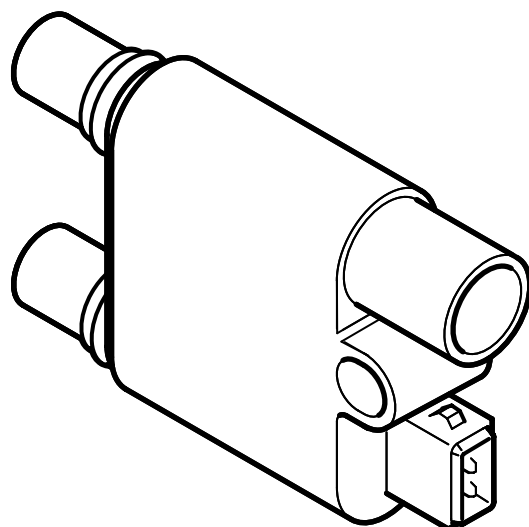


MONTERINGSANVISNING · INSTALLATION INSTRUCTIONS
MONTAGEANLEITUNG · INSTRUCTIONS DE MONTAGE

Saab 9-3, M08-

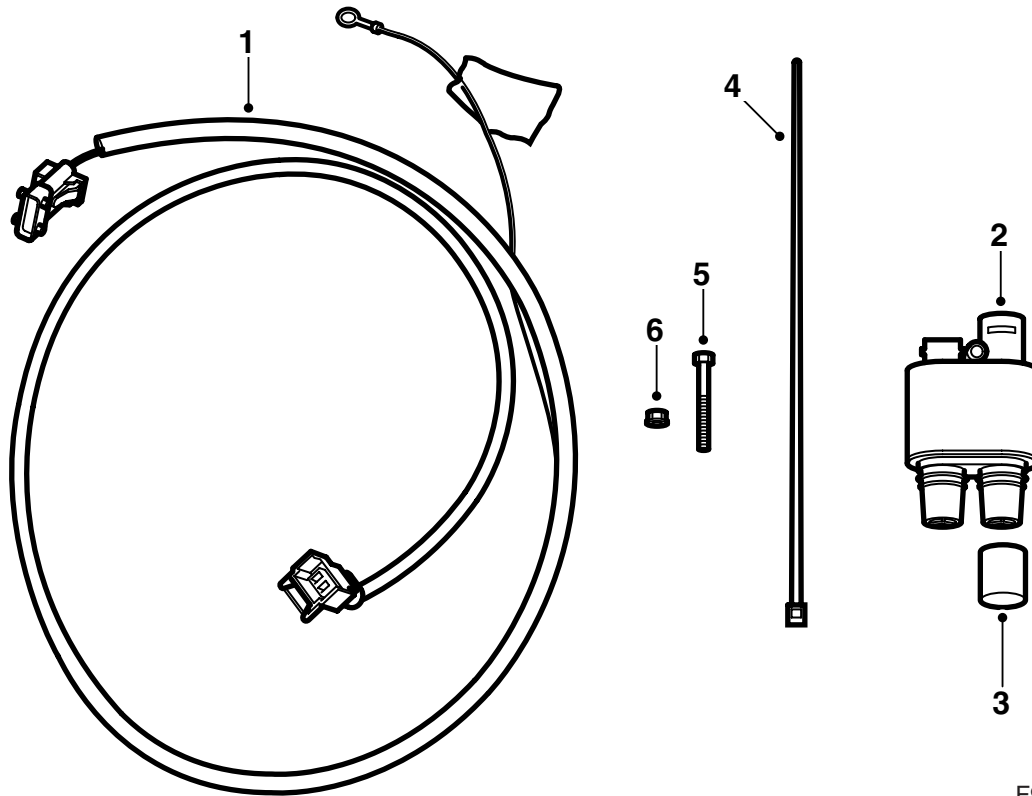
タイマーキット

Accessories Part No.	Date	Instruction Part No.	Replaces
32 026 237	Dec 07	32 026 273	32 026 273 Sep 07



F930A663

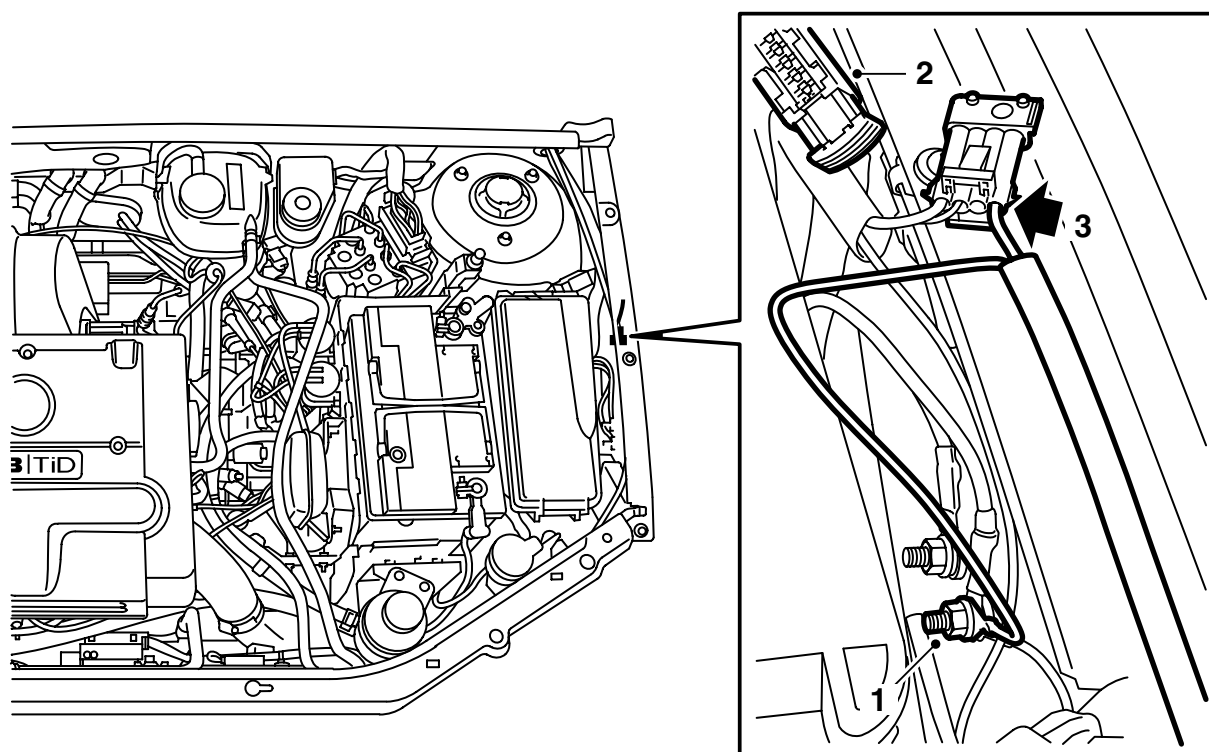
フロントが標準仕様である車両	3 ページ
Aero フロントの車両	5 ページ
リモコンコードの同期化	9 ページ
挟み込み防止機能の学習	9 ページ
時計の設定	10 ページ
アラームの調整	11 ページ
ユーザーの方へ	13 ページ



F930A005

- 1 ワイヤーハーネス
- 2 タイマーリレー
- 3 保護キャップ
- 4 ケーブルタイ (x7)
- 5 ボルト (フロントが標準仕様である車両では使用しない)
- 6 ナット (フロントが標準仕様である車両では使用しない)

フロントが標準仕様である車両



F930A664

- 1 バッテリーのマイナスケーブルを取り外す。ワイヤーハーネスを、ボンネットワイヤーに沿って電気カルセンター後方に配置する。アースケーブルを、エンジンルームの電気カルセンター付近にあるフロントアースポイント (G30A) に接続する。
- 2 エンジンルームの電気カルセンターとフロントフェンダーの間にある「Pre Acc コンセント」を探し出し、テープやダミー接続があれば取り外す。
- 3 ワイヤーハーネスを4極の「Pre-Acc」コンセントに接続する。

重要事項

4極の「Pre-Acc」コンセントが既に他に使用されている場合は、既存のコネクターに次のようにして接続を行う：

- 「Pre-Acc」コンセントを分離する。
- コネクターからタイマーリレーワイヤーハーネス用のシールを取り外し、ケーブルをベースから抜き取る。
- 「Pre-Acc」に接続されていたコネクターの4番の位置にケーブルを挿入する。
- コネクターを「Pre-Acc」に接続する。

- 4 ケーブルタイ1本を使用して、ワイヤーハーネスをボンネットワイヤーに、左ヘッドライト後方で固定する。
- 5 ワイヤーハーネスをバッテリートレイの前、コネクターハウジングH24-1内側の位置で下に垂らす。
- 6 車をリフトアップする。

- 7 スポイラーシールドの左側パーツのボルト (3本) を取り外し、これを倒して下げる。
- 8 ワイヤーハーネスを取り付けられるようにするため、延長ケーブル / 分岐コネクターの全ての接点を外し、ブロックヒーターの延長ケーブルを穴から外に出す。ワイヤーハーネスを、ブロックヒーターの延長ケーブルが配線されていた穴を通して中に入れる。ブロックヒーターの延長ケーブルを再び穴に通す。
全ての延長ケーブルをタイマーリレーに接続する。ロッククリップを取り付ける (正しく取り付けると、カチッという音がするはずである)。



警告

ワイヤーハーネスが挟まれていないことを確認する。誤った取り付けを行うとワイヤーハーネスを損傷し、短絡や火災の原因となる恐れがある。

- 9 ワイヤーハーネスをタイマーリレーに接続する。
- 10 車をリフトダウンする。
- 11 バッテリーのマイナスケーブルを接続する。

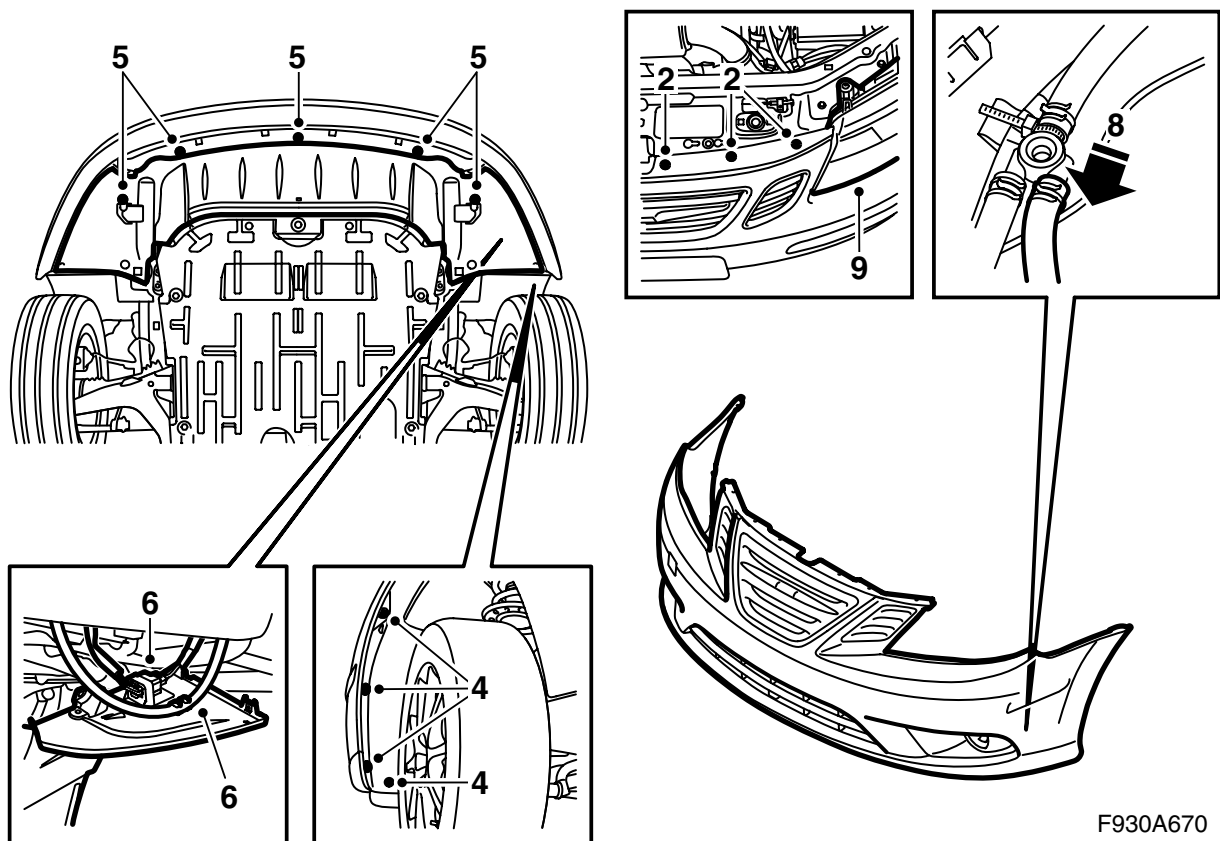
- 12 診断ツールを接続し、車のモデルと年式を選択し、「全て」を選択し、「追加 / 削除」を選択し、アクセサリーを選択し、「追加」を選択する。

重要事項

診断ツールは、場合によって TIS セーフティコードを必要とすることがある。このコードの入手方法は、診断ツールのディスプレイに表示される。

- 13 車両のエンジンヒーターを外部電源のコンセントに接続する。
- 14 SIDC ボタン「CUSTOMIZE」を押し、「エンジンヒーター」を選択し、「SET」を押し、「マニュアルコントロール」を選択し、「SET」を押し、「ヒーター ON」を選択し、「SET」を押し、エンジンヒーターが始動することを確認する。
- 15 「マニュアルコントロール」を選択し、「SET」を押し、「ヒーター OFF」を選択し、「SET」を押し、「戻る」および「終了」を選択する。

フロントが Aero 仕様である車両



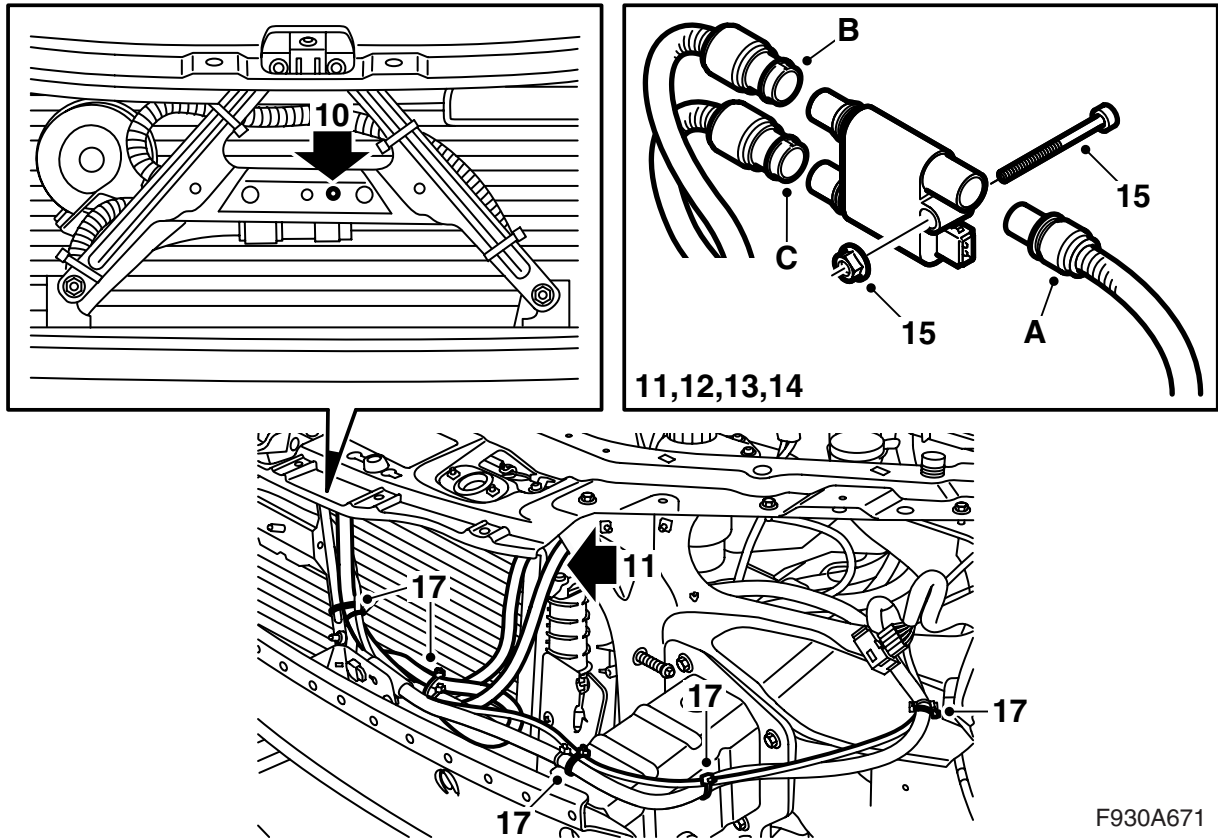
- 1 バッテリーのマイナスケーブルを取り外す。
- 2 上部ラジエーターメンバーから、バンパーアウターシェルの各クリップを取り外す。
- 3 車をリフトアップする。
- 4 ホイールハウジング内の各バンパーボルトを取り外す。
- 5 スポイラーシールドを取り外す。
- 6 バンパーのコネクターを分離し、コネクターをスポイラーシールド上のホルダーから取り外す。

ヘッドライトウォッシャー装備車：スポイラーシールドからホースの留めを外す。

- 7 車をリフトダウンする。
- 8 バンパーシェルの各サイドピースを外側に引いて、バンパーを取り外す。

ヘッドライトウォッシャー装備車：分岐管からホースを外し、8.5 mm のドリルでホースに栓をする。

- 9 左ヘッドライトを取り外す。



- 10 **ブロックヒーターの無い車両**：タイマーリレー用に、ホーンブラケットにドリルで直径6 mmの穴をあける。

警告

車のワイヤーハーネスを損傷しないように注意すること。ワイヤーハーネスが損傷すると短絡や火災の原因となる恐れがある。

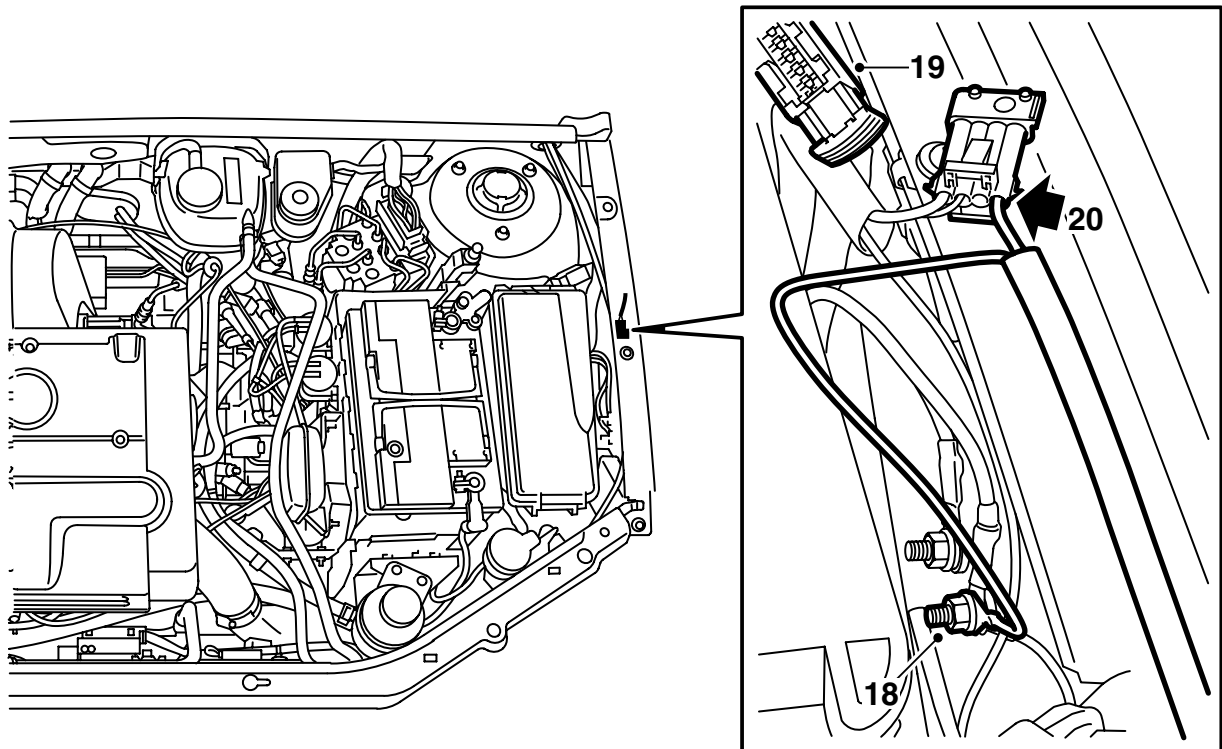
- 11 各延長ケーブル / 分岐コネクタの全ての接点を外し、ケーブルをアッパーラジエーターメンバーまで引き戻す（アッパーラジエーターブラケットのケーブルタイは取り外さない）。接続ケーブルを、左ヘッドライトとラジエーターの間からラジエーターメンバー下まで通す。
- 12 接続ケーブルをタイマーリレー (A) に接続する。
- 13 エンジンブロックヒーターのケーブルをタイマーキットのコンセント (B) に接続する。
- 14 **キャビンヒーター装備車両**：キャビンのコンセントのケーブルを、タイマーリレーのコンセント (C) に接続する。
- 15 リレーのスペーサー突起をブラケット側に向け、ボルトの頭をラジエーター側を向くように取り付けて、タイマーリレーをホーンブラケットに取り付ける。タイマーリレーのコンセント (B) に接続されている延長ケーブルは、タイマーリレー上方に配置しなければならない。

- 16 ロッククリップを各接続部に取り付ける。正しく取り付けると、カチッという音がある。

- 17 タイマーリレーにワイヤーハーネスを接続し、ワイヤーハーネスを接続ケーブルに沿って敷設してからホーン用のワイヤーハーネスに沿わせてバンパーメンバーまで下ろし、衝突センサーのハーネスに沿わせる。タイマーリレーのワイヤーハーネスを、衝突センサーのワイヤーハーネスと同じ固定箇所固定する。

重要事項

タイマーリレーのワイヤーハーネスは、必ずヘッドライトの穴にある衝突センサーハーネス脇に配置しなければならない。



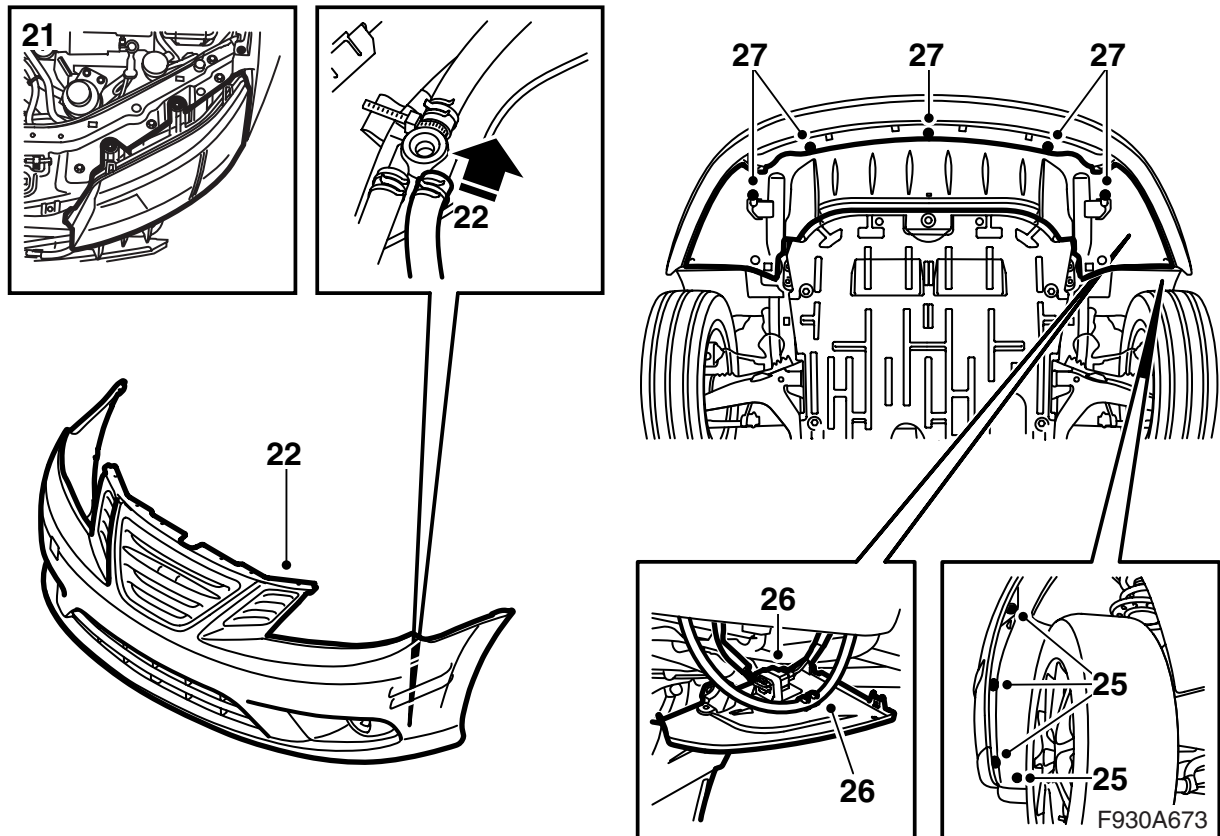
F930A672

- 18 アースケーブルを、エンジンルームの電気リカルセンター付近にあるフロントアースポイント (G30A) に接続する。
- 19 エンジンルームの電気リカルセンターとフロントフェンダーの間にある「Pre Acc コンセント」を探し出し、テープやダミー接続があれば取り外す。
- 20 ワイヤハーネスを4極の「Pre-Acc」コンセントに接続する。

注記

4 極「Pre-Acc」コンセントが既に他に使用されている場合は、既存のコネクターに次のようにして接続を行う：

- 「Pre-Acc」を分離する。
- コネクターからタイマーリレーワイヤハーネス用のシールを取り外し、ケーブルをベースから抜き取る。
- 「Pre-Acc」に接続されていたコネクターの4番の位置にケーブルを挿入する。
- コネクターを「Pre-Acc」に接続する。



21 左ヘッドライトを接続し、取り付ける。

警告

ワイヤーハーネスが挟まれていないことを確認する。誤った取り付けを行うとワイヤーハーネスを損傷し、短絡や火災の原因となる恐れがある。

22 バンパーをリフトアップする。

警告

ワイヤーハーネスが挟まれていないことを確認する。誤った取り付けを行うとワイヤーハーネスを損傷し、短絡や火災の原因となる恐れがある。

ヘッドライトウォッシャー装備車: ヘッドライトウォッシャーホースを分岐管に接続する。

23 バンパーをはめ合わせ、シェルを後方に押し、ホルダーのキャッチにはめる。

24 上部ラジエーターメンバーに各クリップを取り付ける。

25 車をリフトアップし、ホイールハウジング内に各バンパーボルトを取り付ける。

26 スポイラーシールドをリフトアップし、バンパーのコネクターをホルダー内に取り付け、コネクターを接続する。

ヘッドライトウォッシャー装備車: ホースをスポイラーシールドにしっかり留める。

27 スポイラーシールドを取り付ける。

28 車をリフトダウンし、バンパーのはめ合わせを確認する。

29 バッテリーのマイナスケーブルを接続する。

30 **ヘッドライトウォッシャー装備車:** ヘッドライトウォッシャーが正しく作動することを確認する。

31 診断ツールを接続し、車のモデルと年式を選択し、「全て」を選択し、「追加 / 削除」を選択して、アクセサリを選択し、「追加」を選択する。

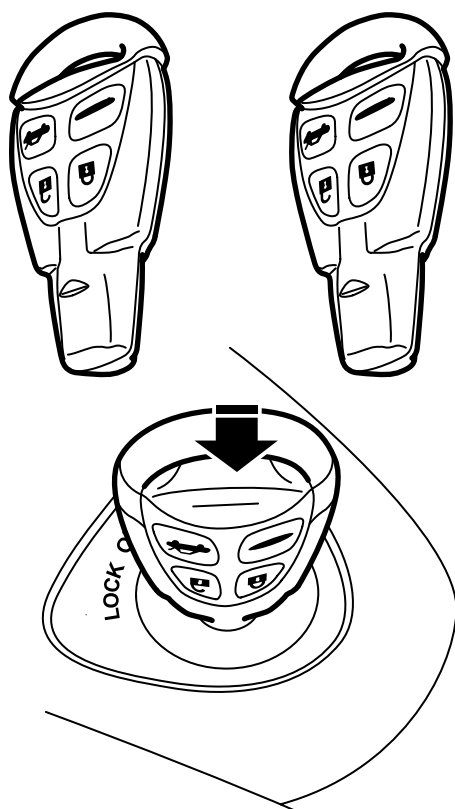
注記

診断ツールは、場合によっては TIS セーフティコードを必要とすることがある。このコードの入手方法は、診断ツールのディスプレイに表示される。

32 車両のエンジンヒーターを外部電源のコンセントに接続する。

33 SIDC ボタンの「CUSTOMIZE」を押し、「エンジンヒーター」を選択し、「SET」を押し、「マニュアルコントロール」を選択し、「SET」を押し、「ヒーター ON」を選択し、「SET」を押して、エンジンヒーターが始動することを確認する。

34 「マニュアルコントロール」を選択し、「SET」を押し、「ヒーター OFF」を選択し、「SET」を押して、「戻る」および「終了」を選択する。



リモコンコードの同期化

キーをイグニッションスイッチに差し込んで、リモコンのコードを同調させる。

重要事項

これは必ず全てのキーで実施すること。さもないと、リモコンが正しく作動しない。

挟み込み防止機能の学習



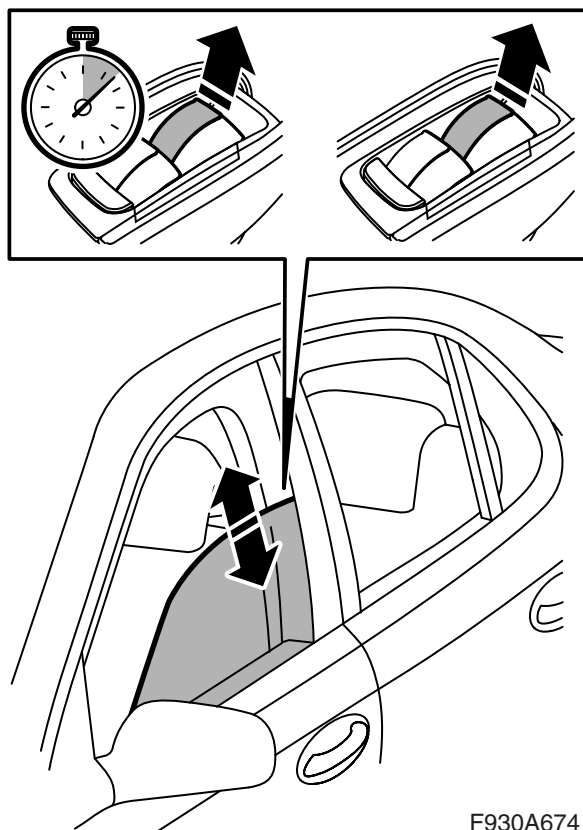
警告

電源接続を切った後では、パワーウインドーの較正を完了するまで、挟み込み防止機能は機能しない。

注記

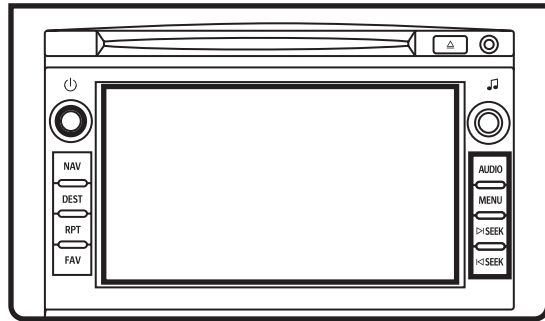
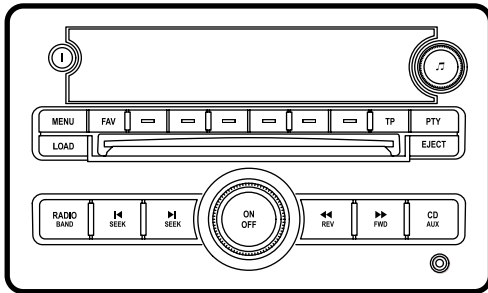
電圧変動があるため、制御モジュールは必ず一度に1台ずつ較正すること。

- 1 ウィンドーを閉じる。
CV (カブリオレ) : ドアとソフトトップを閉じる。
- 2 インストルメントパネルの電気リカルセンター (IPEC) のヒューズ F5 を一旦外してから入れ直し、挟み込み防止機能をリセットする。これにより両方のドア制御モジュールの挟み込み防止機能がリセットされ、フロントウインドーを両方もプログラムすることができる。
- 3 車を始動する。
- 4 ウィンドーを完全に下げる。下がっている間、ボタンを押し続けること。



F930A674

- 5 ウィンドーを完全に上げる。上がっている間、ボタンを押し続けること。ウィンドーが一番上の位置に達しても、1秒以上押し続ける。
- 6 ウィンドーを完全に下げる。下がっている間、ボタンを押し続けること。
- 7 ウィンドーを完全に上げる。上がっている間、ボタンを押し続けること。ウィンドーが一番上の位置に達しても、1秒以上押し続ける。
- 8 較正が完了すると確認音が聞こえる。確認音が聞こえない場合、手順を繰り返す。



F930A675

時計の設定

オーディオシステムがあり、ナビゲーションシステムは無い車両の場合

CD チェンジャーが付いていないオーディオシステムのマニュアル調整：

- 時計のボタンを押す。
- 変更したいメニューの真下にあるメニュー選択ボタンを押す。
- もう一度メニューボタンを押し、時刻または日付を段階的に増やす。時刻または日付は、SEEK ボタン、FWD ボタン、または REV ボタンでも変更できる。

CD チェンジャー付きオーディオシステムのマニュアル調整：

- MENU ボタンを押す。
- ディスプレイの、時計のシンボルの真下にあるメニュー選択ボタンを押す。
- 変更したいメニューの真下にあるメニュー選択ボタンを押す。
- もう一度メニューボタンを押し、時刻または日付を段階的に増やす。時刻または日付は、SEEK ボタン、FWD ボタン、または REV ボタンでも変更できる。

RDS 時刻の自動調整：

RDS 時刻を受信するためには、通常の受信状態で、実際のラジオ局が RDS 時刻 (CT-Clock Time) 用信号を送信していることが必要である。

- 時計メニューで、ディスプレイの矢印の真下にあるメニュー選択ボタンを押す。
- メニューで RDS 時刻の真下にあるメニュー選択ボタンを押す。
- これにより時刻の調整は自動的に行われ、ディスプレイに「RDS 時刻に変更」と表示される。時刻情報が無い場合、または RDS 受信状態が悪い場合は、ディスプレイに「RDS 時刻受信不可能」と表示される。

時計の設定

オーディオシステムとナビゲーションシステムを装備した車両の場合

注記

本ユニットはタッチパネル機能を装備し、時刻のみ表示する。ナビゲーションシステムは GPS 信号により正確な日付を受信する。日付は、サービス等、その他の車両作業に使用され、ディスプレイには表示されない。

- 1 イグニッションを ON 位置にする。
- 2 オーディオシステムをオンにする。
- 3 時計のタブがアクティブになるまで、MENU を押す。
- 4 タッチスクリーンで、RDS 時刻またはマニュアル調整を選択する。RDS 時刻を受信するためには、通常の受信状態で、実際のラジオ局が RDS 時刻 (CT-Clock Time) 用信号を送信していることが必要である。

アラームの調整

モーションセンサー付きの盗難防止アラームを装備した車の場合は、ヒーターがオンになるとアラームが誤作動することがある。

これを防止するため、診断ツールを使用して、ヒーターが作動するとモーションセンサーがオフになり、ヒーターが停止すると再びオンになるように設定することができる。

注記

顧客に、アラームの設定を調整する可能性があることを通知した上で、アラームのコンフィギュレーションについて決定する。

手順

診断ツールを接続し、次のようにナビゲートする：

故障診断 - 車両タイプ - 年式 - ボディ - 盗難防止
- 盗難防止アラーム - 調整 - 盗難防止、探知機能を無効にする

アラームのコンフィギュレーションを選択する。

ユーザーの方へ

- 延長ケーブルは、屋外使用が認められた耐油性ゴムケーブルで、断面積が $3 \times 1.5\text{mm}^2$ 以上のものを使用して下さい。
- ヒーターシステムは、アース付きコンセントへの接続のみが認められています。



警告

全てのケーブル類は慎重に取り扱って下さい。

- ボンネットとボディの間に挟まないように、また、鋭利な部品などに当たって損傷を受けないように、注意して下さい。
- 感電を回避するため、コネクタプラグのアースピン、ヒーターハウジング、車のボディの間のアース接続を定期的に点検して下さい。
- 延長ケーブルは、損傷や経年劣化について定期的に点検して下さい。損傷しているケーブルは、ケガにつながる恐れがありますので、直ちに新品と交換して下さい。

注記

下記の場合、ヒーターの機能が劣化する恐れがあります：

- 冷却液が汚れている場合
- 冷却液レベルが不十分であるか、システム内に空気が入っている場合
- システム内にみぞれ状の氷が入っている場合
- ラジエーターシールが使用されている場合

アラームの調整

モーションセンサー付きの盗難防止アラームを装備した車の場合は、ヒーターがオンになるとアラームが誤作動することがあります。

これを防ぐため、ヒーターがオンのときにはモーションセンサーがオフとなり、ヒーターがオフになるとモーションセンサーがオンになるように設定することができます。

アラームの調整については、サーブ指定の整備工場にご連絡下さい。